

年率10%増のセメント消費量
ひいては建設投資の高度成長の
開始時期を基準にするとわが国
の7年、15年、30年後を追いか
けているご近所の台湾(TW)、
韓国(KR)、そして中国(CN)の
動向をもう少ししていねいに見て
いこう(図-1)。

対数目盛りではよくわからな
かったが、縦軸を普通のグラフ
にしてみれば、台湾と韓国のピー
ク時のセメント消費が凄まじ
かったことがわかる(図-2)。わ
が国のピークが1973年の715
kg/人であったのに対し、台湾は
1993年の1,332 kg/人、韓国は
1997年の1,343 kg/人であった。

「一衣帯水」と言われ、わが
国と地形の条件がよく似ている
はずの両国でなぜこのようにセ
メントの消費が凄まじかったの
か考察してみたい。

セメントの消費、すなわちコン
クリート構造物の建設が過去の
建設投資量(=ストックの蓄
積量)に密接に影響されている



Joker 2号 大内雅博の

当たらずとも
いえども
遠からず 連載

正会員 大内雅博 OUCHI Masahiro (高知工科大学准教授)

と仮定し、各年の累積消費量と、
その年の年間消費量との関係の
推移を示してみた(図-3)。意外
なことに、一人当たり累積セメ
ント消費量が7トンぐらいまで
は中国を含めて各国の推移がほ
ぼ同じであったことがわかる。

では、日本と台湾・韓国とで
は、どこで差異が生じたのだろ
うか。たぶん、建築の構造形式
の差であろう。国土交通省の統
計によれば、2004年度における
わが国の建築物の形式別の着工
床面積は、木造：コンクリート
造(鉄筋コンクリートと鉄筋鉄

骨コンクリートの合計)：鉄骨
造がほぼ1：1：1であった。
木造が全体の3分の1を占めて
いる。それでもわが国のコンク
リート消費の半分強が建築であ
る。

一方、台湾と韓国の建築統計
を手に入れることはできなかつ
たが、少なくとも私の旅行中、
施工中もしくは新築の木造建築
を見た記憶がない(図-4)。韓国
ではどんな田舎でも住宅は高層
マンションしか見ることができ
なかった。この凄まじさについ
てはぜひ一度現地をご覧いただ

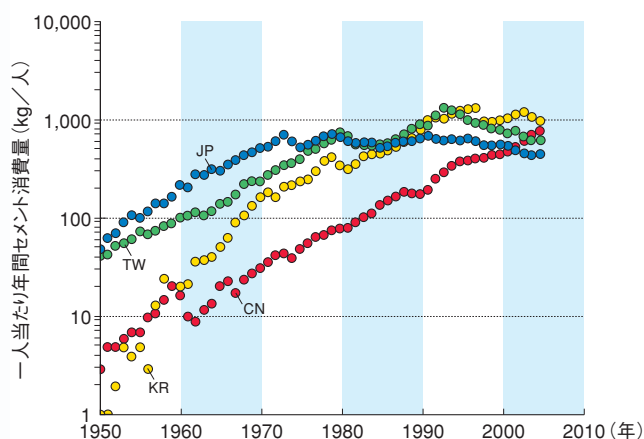


図-1 日本・台湾・韓国・中国の時間差

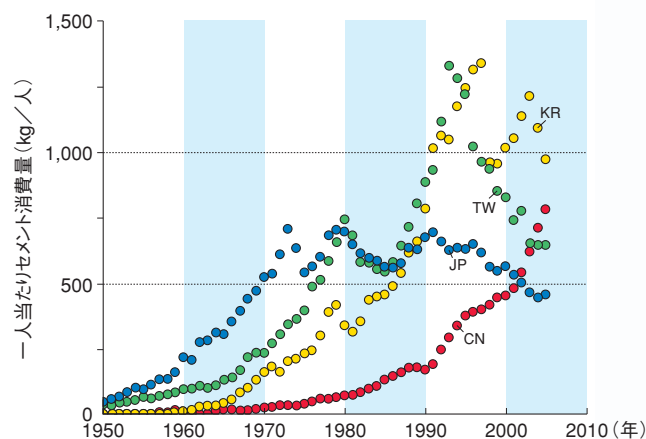


図-2 消費のピークが凄まじかった台湾・韓国と続伸中の中国

第 15 回

日本から台湾、韓国、そして中国へ

きたい。『冬のソナタ』における大学教授宅の一戸建ては例外中の例外であると思っている。

当たらずといえども遠からず、台湾と韓国とは、少なくともわが国で木造建築に相当する分がそっくりコンクリート造に置き換えられたと仮定すると、台湾と韓国の凄まじいセメント消費量を説明できるのではないか。

さて、日本・台湾・韓国の3ヶ国ではもはやピークを過ぎたと見てよいであろう。一方、中国は現在も消費の記録を更新中である。2005年の値は788

kg/人。すでにわが国のピーク値を超えてしまっていることに驚愕する。減少傾向にある台湾をすでに上回り韓国にあと一歩という状況に、人口の多さとあいまって戦慄すら覚える。

その中国のセメント消費の今後はどうなるのか。これはひとえに、新築住宅の構造形式いかによると思う。私の観察した範囲では、すでに

圧倒的にコンクリート造が多い。ということは、中国は、日本ではなく台湾や韓国と同じようなセメント消費の推移をたどるのではないか。すでにわが国のピーク値を更新し、いまだ増加中との報に接すると、その感を強くする。

【データ出典】

CEMBUREAU: World Cement Market in Figures 1913/1995

建設物価調査会：建設統計要覧 2006

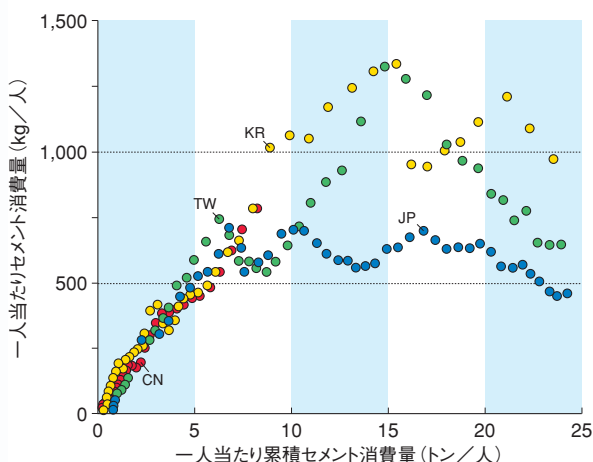


図-3 毎年の累積消費量と年間消費量との関係(1950年～2005年)



図-4 各国の典型的な新築住宅

(キャラクター&外枠デザイン：宇野洋志城)